

アブラボテ *Tanakia limbata* (Temminck et Schlegel)

【選定理由】

愛知県内における生息地は著しく少なく、散発的な記録しかない。近年採集された個体は移入種の疑義も残るためランク評価が困難である。

【形態】

体長約 5cm。平たい形をしたタナゴの仲間である。側線は完全で、1 対の口ひげを持つ。体色は褐色を帯び、肩部や体側に縦条は無い。産卵期を迎えた雄は黒みがかった黄色ないしオリーブ色になり、腹鰭と臀鰭が黒色を呈し、吻端に追星の集まった白色のこぶが発達する。雌の産卵管は黒色で、伸長した時は尾鰭末端に達する。

【分布の概要】

【県内の分布】

三河地方、尾張地方北西部。

【国内の分布】

濃尾平野から九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

【生息地の環境／生態的特性】

灌漑用水路などの小河川に生息することが多い。岐阜県では丘陵地の小河川に多く見られる。また、滋賀県では湧水のある場所に多いとされる。ドブガイやマツカサガイといったイシガイ科の淡水性二枚貝に卵を産み付ける。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内での詳細な生息状況は不明である。少ないながらも採集例があることから、生息地においてはわずかながらも個体数は維持されているものと考えられる。主な減少要因は河川の改修による環境変化、水質汚濁による生息環境の悪化と、産卵母貝となる二枚貝の減少と考えられる。

【保全上の留意点】

他のタナゴ類と同様、本種もイシガイ科の二枚貝に産卵するため、繁殖の成否は二枚貝の生息に大きく依存する。そのため、二枚貝類に着目した生息環境の配慮が望まれる。特に河川改修の際、河床を改変する恐れがある場合には、事前に底生生物も含めたモニタリングを実施し、必要に応じて二枚貝の捕獲、再放流等の対応をとる必要がある。

【特記事項】

岐阜県の本曾川水系に多数生息することから、愛知県においても本来生息していたものと推定されるが、現在の生息地はきわめて少ない。秋田県や愛媛県では、人為的に移入されたアブラボテが在来のヤリタナゴなどと交雑することが問題となっている（杉山, 2013；松葉, 2014）。

【引用文献】

- 松葉成生・吉見翔太郎・井上幹生・畑啓生, 2014. 分子系統地理が示す愛媛県松山平野におけるアブラボテの人為移入起源. 魚類学雑誌, 61: 89-96.
杉山秀樹, 2013. クニマス・ハタハタ 秋田の魚 100, 403pp. 東北出版企画.

【関連文献】

- 長田芳和, 2001. アブラボテ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版, pp.356-357. 山と溪谷社, 東京.

(向井貴彦)